

— 総括表 —

◆ 事業計画

地域の現状と今後の方向性

上笹下地区は磯子区の南部に位置した南北縦長の地域で、面積は区内最大となっています。円海山や大岡川の清流など、恵まれた自然環境があり、夏には、今では珍しくなった蛍の観察ができるなどの磯子区民の憩いの地域を有しています。昭和40年代に開発された大規模集合住宅、大手不動産メーカーが開発整備した、宅地が混在。南北を縦断するように笹下釜利谷道路が走っていますが、そこから一步入ると、坂や狭い道が多く、高低差があり、公共交通機関も充足しているとはあまり言えません。上笹下地区全体の高齢化率29.5%と進行。上中里町、氷取沢町では35%を超え、特に高齢化が進んでいます。世帯を構成する人数が減少、高齢者の一人暮らし、高齢の夫婦のみといった世帯が増えてきています。エレベーターのない集合住宅が多く、「階段が下りれない」「バスの乗り降りが大変」等、外出支援の問題は今後ますます大きくなっていくと考えられます。田中や栗木など、ケアプラザとは端に位置しているため、ケアプラザへ足を運ぶことが難しい方が多く、ケアプラザで何かやってもそこまで行けない、遠い。そもそもケアプラザって何？知らないというかたもまだまだ多い状況にあり、幅広く周知活動を行っていく必要があります。ケアプラザから離れた地域に対してサロンの開催や出張講座を開催し周知活動を重点的に行っていくと共に、人的資源・社会資源の育成と地域企業との共創を図り、年を重ねても住み慣れた地域で自分らしく暮らせるよう、地域包括ケアシステムの構築を目指していきます。

今年度の重点的な取組

新規	継続	— 具体的な取組内容 —
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	・貸館団体及びボランティア交流会にてアンケート実施 日程：1/26
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	・「ボランティア養成講座」の開催
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	・「栗木サロン」等、地域企業との共創により、生活支援・介護予防・社会参加の場作りを進める
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	

◆ 事業報告・事業実績評価

振り返り

南北に縦長の地域という特性を踏まえ、今年度も各地区へのアウトリーチ、継続的な事業実施に努めてきました。地域行事等へ参加させていただく機会も増え、より地域に密着した活動が行えるようになってきました。貸館団体数も増え、集いの場、活動の場として、多くの方にケアプラザを利用していただけるようになりました。こども食堂での学習支援、小学校でのイベントや地域福祉施設等に対しボランティアコーディネートを行うこともできました。今後もボランティアや担い手の育成に努めていきます。地域企業の協力を頂き、サロンや介護予防教室を定期的に開催することもでき、ケアプラザから離れた地域での集いの場として定着してきています。総合相談では、8050問題をはじめ、多くの問題を抱える家族の相談が増えてきています。区役所・民生委員・自治会町内会・各種関係機関と情報の共有・連携を図りながら、丁寧に対応しています。今後もケアプラザの周知活動を積極的におこなっていくと共に、地域に根ざし、地域の一員として地域の皆様と共に事業推進に取り組んでいきます。

区からのコメント

地理的にケアプラザの利用が困難な地域に向けて、地元企業と協力しながら「集える場」を開拓し、ケアプラザのサテライト会場として行っている事業は継続していただきたいと思います。今後は自治会町内会や民生委員等の地域の活動団体と協力しながら、相談や支えあいの場として定着できるよう支援していくことを期待します。また、地域で行っている支えあいの取組や、今後顕在化してくると考えられる移動困難等の地域課題に対して、積極的に介入していく手掛かりをつくっていただければと思います。地域包括支援センター事業については、広域な地域の中で、事業をおこなうことはご苦労が多いだろうと思います。その中で、地域と少しずつ繋がりをもち、個別ケースの対応や地域活動へつないでいくことが出来てきており、日々の努力の賜物なのではないかと思います。今後の課題と考えているのは、広域な地域ということ意識して、地区分析をおこないそこから抽出された課題に対して、事業を計画することができればと考えます。もちろん、全地区を一度におこなうのは困難だと思いますので、いくつかの地区を重点的に取り組む地区として進めていくのが良いのではないのでしょうか。